

意見公募手続による市民意見に対する回答

(意見・質問の表記については、原文のまま)

NO.	提出者	意見・質問	回答
1	市内個人 メール	<p>標記の趣旨に合致しているかどうかは分かりませんが、「新発田市都市計画マスタープラン(案)」を読んで感じたことを、下記に述べてさせていただきます。一つの意見(思い)として真摯に向き合って頂ければ幸いです。宜しくお願い致します。</p> <p>マスタープラン(案)を読んで最初に感じたことは、当該プランをいくら読んでも、10年後、20年後の新発田市の具体的な姿が見えてこない点である。課題とやりたいことは明記されているようではあるが、目指すところの新発田市の具体的な「あるべき姿(将来の姿)」が明記されていないため、施策(やりたいこと)が本当に課題の解決に繋がっているのかどうか疑問である。具体的な施策として①土地利用方針の整備、②交通体系(道路、公共交通等)の整備、③都市施設(河川・公園・緑地等)の整備、④都市環境(防災力向上、景観等)の整備を行うとしているが、どう考えてもこれらの施策で、現在進行している「高齢化、過疎化が進む町」から脱却できるようなとは思えない。ましてや、当該プランの中で町の再構築の視点となっている、①少子化対策、②産業振興、③教育の充実といったことが、真に実現されるようにも思えない。「新発田市の具体的なあるべき姿」、「そこにに向けた課題」、「設定した課題を解決するための具体的な施策」の関係を明確にして欲しい。</p> <p>また、近年の状況を見る限り、産業振興として食品製造業に力を入れているようであるが、残念ながら、進学等のために県外へ転出した若者たち(子供ら)が、新発田で就職する受け皿には全くなっていない。転出していった若者が地元の新発田に戻ってこられず、高齢化に拍車をかけている。産業振興をうたうなら最低限、進学等で県外へ転出した若者の受け皿くらいは確保できるような政策立案・行政を行って欲しい。そうでないと、何のための産業振興か分からない。都市という以上、新発田市も「活力溢れる町」であって欲しい。その意味では、町が廃れないように、あるいは雇用維持のために市内の主力企業である建設業、土建業の企業におカネ(税金)を注ぎ込み続けたいという思いも分からないでもない。しかし、そのようなことをいくら行っても、少子化や高齢化といった過疎化や、産業の振興、教育の充実といったことはおろか、地方都市の消滅というストーリーからの脱却は不可能と考える。どうせ、おカネ(税金)を使うなら、知恵を出し合ってもっと人や企業が集まってくる(若者が戻ってこれる)ことに資する政策立案・行政を行って欲しい。今回のマスタープランでは、どう考えてもじり貧が続いていくだけで、新発田の将来性ということに関しては、不安を感じてしまう。このように感じるのは、私一人だけではないように思う。</p> <p>そこで、概念はさておき、せめて以下の具体的な3点を真剣に考えて欲しいと思う。</p> <p>1. 進学等のために県外へ転出した若者が、新発田へターンできるようにして欲しい。</p> <p>何と云っても、進学等で首都圏に転出した子供らが、戻ってこれない(働く場がない)という問題を解決して欲しい。そのための産業(企業)誘致が不可欠である。現在は、食品会社の誘致が主体となっているように見受けられるが、受け皿としては不十分である。もっと「すそ野」の広がりがあり、受け皿として十分な規模を有する産業(企業)の誘致を実現して欲しい。裾野の広がりのある産業(企業)には、その1社を誘致することにより、その企業が必要とする材料や部品を供給している協力会社も併せて誘致できる可能性がある。他の自治体の成功事例も参考にしてチャレンジして欲しい。上手くいけば、確実に高齢化、過疎化、空家といった問題解決につながると思う。ここなくして新発田市の消滅の危機は無くならないと考える。</p> <p>2. 町が潤うためにも田園都市というよりは、恵まれた自然を活かした、首都圏から人を呼び込めるアウトドア派向けの観光立地自治体を実現して欲しい。</p> <p>新発田市は、ことさら城下町へのこだわりが大きいように思えるが、歴史の表舞台に立ったことのない新発田藩は、城下町ということで首都圏から人を集めるには、あまりにも弱すぎる。新発田やその近隣でおカネが回っていても仕方がない話である。町が潤うためには、市や県外の人間の発田での消費が必要である。(城下町として銘打つとすれば、どう考えても歴史的にも名高い、河井継之助や山本五十六を輩出している長岡市の方に分がある。そのため、城下町としての観光資源としての効果は乏しいと言わざるを得ない。)</p> <p>反面、JR羽越線沿線にある新発田(の近隣)には、本格的なアルピニストではない一般の人々が楽しめる五頭山、大峰山、楡形山脈等豊富な自然が満ち溢れている。そこで、従来型の名所旧跡を訪れるという観光ではなく、「手軽に山に登り自然に親しみたい」と考えている首都圏の老若男女をターゲットとした観光立地都市を是非実現して欲しいと考える。そこへのアクセスやガイドのことを別にすれば、幸いかな、こうした山々は整備が行き届き、景観も素晴らしい。しかるに、首都圏の多くの人々が魅了されること疑いない。</p> <p>ただ、京都、奈良、大阪等と異なり、新発田市単独で観光立地自治体を目指すのは難しい。幸いかな、JR羽越線沿線においては、夕日の美しい日本海(笹川流れ等)、出羽三山(山形)、鳥海山(山形、秋田)をはじめとする豊かな自然がそろう踏みである。首都圏からのアクセスも上越新幹線、山形・秋田新幹線があり、来るにしろ帰るにしろ便が良い。従って、でき得ればこうした自然環境を管轄している各自治体の観光協会を束ねて、「JR羽越線・観光協会(仮名)」として各観光地間の連携、宣伝広告、及び観光客の一元管理等が行えたら非常に素晴らしいと考える。全国でも例のないことである。そしてその結果、沢山の人が新発田をはじめとする各々の自治体で山登りはじめとする自然に親しみ、沢山の消費をしてもらえたらこの上ないことと考える。</p> <p>3. 上記2項目を前提とした20年後、30年後の新発田市の「具体的なあるべき姿」を明確に示して欲しい。</p> <p>今回、当該プラン(案)を読んで一番評価し得なかったことが、前述の通り、何度読んでも20～30年後の新発田市の姿が見えてこない点であった。後継者難に見舞われ、シャッター街化しつつある、駅前および立ち寄り商店街等がある一方、郊外には、ジョイタウン、コモタウンといった商業施設がある。また、中心地に近い住宅街は、その子息の転出と転出先での定住化によって、老人・独居老人世帯、あるいは空き家が急増している。その一方で、宅地造成区域が郊外のさらにその先の郊外に向かって伸びている。このままでは、こうした新しい宅地造成区域も30年後には、老人・独居老人世帯となっていくことは必至である。こうした、まだら化していく都市(町)の実態を、今後どのような姿にしていこうとしているのか、その具体的な姿と方法論を1日も早く明確にして欲しいと考える。ここが、立法・行政を司る方々の最大の使命と考える。</p> <p>以上の3点、課題も多いと思うが具体化に向けて是非検討をお願いしたい。箱モノ行政も含めて、「転出した若者が新発田に戻って働ける場があり、外から多くのアウトドア派の観光客が訪れ、老若男女が毎日散策や行楽、買い物を楽しめる」。こんな街を実現すべく、誰にとっても分かりやすい(イメージの湧く)プランを策定して欲しい。これこそが、新発田が消滅の危機から脱却する上での最大の鍵であると考えられる。逆に言えば、こうしたあるべき姿を前提とした土地利用、交通体系、都市施設、都市環境の改善を考えるべきと考える。その意味で今回のプラン(案)は、まだまだ相当にブラッシュアップが必要と考える。</p> <p>最後までお読みいただき、ありがとうございました。豊かな町の実現に向けて、真摯に向き合ってください。</p>	<p>ご意見の趣旨にもある①少子化対策、②産業振興、③教育の充実、④「新発田市まちづくり総合計画」で目指す将来都市像「住みよいまち日本一 健康田園文化都市・しばた」に合致するものと考えます。また、市では深刻な問題となっている「人口減少」を克服し、「新発田らしさ」を活かした地域の活性化のため、取り組むべき方向を「しばた魅力創造戦略(まち・ひと・しごと創生 新発田市総合戦略)」を平成27年度にまとめています。</p> <p>都市計画マスタープランは、これら市の上位計画や関連計画を踏まえ、都市計画分野での個別計画として策定しております。また市では、都市計画マスタープランとあわせて、都市再生特別措置法に基づく「立地適正化計画」を策定しております。この立地適正化計画は、医療・福祉や商業などの施設と住居等がまとまって立地し、高齢者をはじめとする住民が公共交通によりこれらの生活利便施設等にアクセスできるなど、都市全体の構造を『コンパクトシティ・プラス・ネットワーク』の考えにより見直して都市づくりを進めていくために、居住及び都市機能の適正な立地に向けた方針等を定めたものです。</p> <p>主に「産業(企業)誘致」に関するご提案ですが、都市計画の方針としては分野別方針の「土地利用の方針」のなかで地域や産業の維持・発展に資する拠点の形成を行い、産業の活性化を図ることとして記載しております。具体的にご提案については、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>産業の活性化や企業誘致については、まちづくり総合計画やしばた魅力創造戦略の上位計画や関連計画のほか、新発田市地域産業活性化基本計画を策定し、具体的な方針を掲げ取り組んでいるところです。</p> <p>主に「観光立地自治体の実現」に関するご提案ですが、都市計画の方針としては分野別方針の「土地利用の方針」のなかで歴史・文化的資源の保全・活用による本市の魅力向上を図ることとして記載しております。具体的にご提案については、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>観光に関する取り組みについては、まちづくり総合計画やしばた魅力創造戦略の上位計画や関連計画のほか、観光分野のマスタープランである『観光振興基本計画』において具体的に方針を掲げ取り組んでいます。</p> <p>広域的な連携は観光分野も含めた様々な分野において不可欠なものとなっており、新発田市・胎内市・聖籠町による定住自立圏や、新潟市が近隣市町村と連携して圏域全体の発展を目指す連携中枢都市圏「(仮称)新潟広域都市圏」などの取組を進めています。</p> <p>この他、現在、新発田市観光協会が主体となって、新発田版DMOの設立に向け、宿泊業や飲食業、交通事業者、農業者、商工業者や各関係機関・団体に行政、そして市民を加えた、まさにオール新発田体制と呼ぶにふさわしい「新発田市観光地域づくり推進協議会」を立ち上げ、今後の広域観光連携の推進に向けた観光基本情報の集積と、マーケティングによる観光戦略を検討しているところです。</p> <p>「具体的なあるべき姿」に関するご意見ですが、まちづくり総合計画で掲げた将来像の実現に向け、都市計画マスタープランでは都市づくりの将来像として「安心安全で持続可能な魅力ある都市」の方針を示し、</p> <p>①コンパクトで暮らしやすいまちづくり ②人口減少や高齢化を見据えた持続可能なまちづくり ③市民が安心安全にくらすことのできるまちづくり ④地域資源を保全・活用した潤いと魅力・活力のあるまちづくり</p> <p>を掲げ都市づくりを推進することとして記載しております。</p> <p>都市計画マスタープランは都市計画分野でのマスタープランであり、都市計画分野に関連する具体的事業や施策については、この方針を踏まえ各事業の計画を策定することになります。</p> <p>今回の新発田市都市計画マスタープランにつきましては、まちづくり総合計画で掲げる将来像を実現するための個別分野の計画として、都市計画分野での方針を示すものであり、「安心安全で持続可能な魅力ある都市」を都市づくりの将来像として都市づくりを推進することとしております。都市計画分野に関連する具体的事業や施策については、この方針を踏まえ各事業の計画を策定することになります。</p> <p>また、計画書96ページの「3.(1)都市計画マスタープランの見直し」にも記載していますとおり、社会情勢の変化や上位計画の変更により、随時計画の見直しを行います。</p>
2	市内個人 書面	<p>マスタープラン(案)についての意見等のしめ切りをのばしてほしい。</p> <p>1月末ぐらいまで延長してほしい！！</p> <p>よろしく願いいたします。</p>	<p>今回の新発田市パブリックコメント手続きの事務の流れに則り、意見・提案の提出期間を30日以上設け、12月1日より意見・提案の募集を行ったものです。</p>